

## 英 語

### 問1 英語科の目標はどのように改訂されたか。

教育課程審議会の答申では、専門教育に関する各教科・科目について、次のような改訂の基本的な考え方が示されている。「専門教育を主とする学科の特色が一層生かされるよう、また、社会の変化に対応し、生徒一人一人の個性を一層伸長する観点から、例えば、新たな科目を設けたり、内容を選択して学習したり、重点的に学習したりすることを拡充して、主体的・問題解決的な学習を充実するなどの見直しを行うことが適当である。」英語科の改訂に当たっては、この答申を踏まえ、具体的には次の観点を考慮して、改訂が行われた。

- (1) 国際化に対応して、実践的コミュニケーション能力の育成を主たる目標とする。
- (2) 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を重視する。
- (3) 各科目における学習内容を、現代の生徒や学校の実態に合うように改め、生徒の多様化した能力・適性や興味・関心等に応じた科目編成が可能となるようにする。

この基本方針に基づいて改訂された英語科の目標は、「英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う」であるが、この目標は外国語科に準じたものとなっている。

この目標は、次の三つの要素から成り立っている。

- (1) 英語を通じて、言語や文化に対する理解を深めること。
- (2) 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すること。
- (3) 英語を通じて、情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養うこと。

この中では、実践的コミュニケーション能力の育成が英語科の目標の中核をなしており、英語を使って、情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりして、相手と通じ合うことのできる能力の育成を目指している。

### 問2 各科目で改訂された事項は何か。

英語科の目標、及び各科目の目標と内容については、次のように具体的に改訂された。

- (1) 科目数については、7科目と変わりはないが、「外国事情」が「異文化理解」に、「英語一般」が「生活英語」に、「LL演習」が「コンピュータ・LL演習」にそれぞれ変更された。
- (2) 英語科の目標は「外国語科」のそれに準ずることとし、各科目の目標は英語科の目標を踏まえて、情報や考えなどを伝え合う能力の育成と、実践的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を重視するようにした。
- (3) 各科目の内容及び内容の取扱いについての改訂事項は別表のとおりである。

(別表) 各科目の内容及び内容の取扱いの主な改訂事項

科 目	内 容	内 容 の 取 扱 い
総合英語		中学校との連携を密に図ることを留意点として示した。
英語理解	「速読」を加えた。	「総合英語」の学習の基礎の上において指導を行うことを示した。
英語表現	「演劇」を「スキット・劇」とし、「創作」を削除し、「手紙・日記」を加えた。	「話す速度」と「ジェスチャーなどの非言語的手段」を加え、「場面や目的に応じた表現ができるようにする」ことを求めた。履修順序を示した。
異文化理解	目標や内容を実践的コミュニケーション能力を育成することを中心としたものに改善した。	「電子メールの交換や実際の交流などのコミュニケーション体験を通して理解を深めるようにする」ことを示した。さらに、必要に応じて、「日本の日常生活や風俗習慣などを取り上げる」よう配慮すべきことも示した。
生活英語	「情報通信ネットワークなどの活用」を加えた。	「指導に当たっては、基礎的・基本的な内容に重点を置くなど、生徒の実態に応じた指導を工夫する」ことを求めた。同時に、「基本的な書式の文書の作成などができるようにする」ことを加えた。
時事英語	「ビデオや映画などの理解」と「情報通信ネットワークを通じた情報の理解」を加えた。	「生徒の能力・適性、興味・関心等に応じて、教材の分量、程度、速度等に留意しながら、多様な題材を取り上げるとともに、他の教科との関連にも配慮すべきこと」を示した。履修順序を示した。
コンピュータ・LL演習	「対話」、「説解」、「作文」を新たに加え、より具体的な内容とした。	「他の科目と有機的に関連」させることと、「コンピュータやLLなどの特性を生かし、個別学習を取り入れるなど」の工夫をすることを求めた。

問3 各科目の履修に当たって配慮すべき事項は何か。

履修に当たっては、次のことに配慮することとする。

- (1) 「総合英語」及び「異文化理解」については、原則として、すべての生徒に履修させること。
- (2) 「英語理解」、「英語表現」及び「時事英語」については、原則として、「総合英語」を履修した後に履修させること。